

武庫川天然アユ復活をめざした今後の取組（案）

090202

武庫川づくりと流域連携を進める会

代表 田村博美

武庫川漁業協同組合の要請を受け、また流域市民のより素晴らしい武庫川づくりへの意向を背景に兵庫県が天然アユ復活に向けた基礎調査に取り組む方針を打ち出したことは画期的である。

当会も今年 1 月 17 日に「武庫川に天然アユの復活を～フォーラム」を開催し、アユの生態、海の生息環境、川の環境等多面的な角度から講演と意見交換を行った。幾多の課題はあるが多くの参加者が武庫川に天然アユを復活できるとの確信と今後に向けた取り組みを確認したところである。

天然アユの生息環境を創出することは普通の武庫川をより市民に近い川にするとともに、より自然と共生した川にすることでもある。また同時にまちの活性化や水質浄化にもつながり、まさに「川とまちが一体となった魅力ある地域づくり」にもつながる。この目標に向けて市民、漁協、行政、企業、学校等が一体となり協働して取り組むため「武庫川アユ調査会（案）」を宝塚土木事務所が事務局となり組織することを提案します。また「武庫川アユ調査会」の構成、当面の調査、市民参加の方法等について協議できればと考えます。以下にアユの生活史と一般的に行われている調査項目について矢作川の例を参考に示します。

	アユの生活史	調査時期・調査項目	市民参加の可能性 * 田村作成
秋	アユは川で産卵。約 20 日間で孵化し、仔魚は川の流れてに乗って海に降下する。	10 月～12 月 ●流化仔魚調査	○専門家による調査結果概要について勉強会
冬	海に下ったアユは最初は岸に近い浅瀬でプランクトンを食べて成長する。2 cm ほどになると岸から離れ、沖合数百メートルから 2 km ぐらいまで見られる。春に川へ入る前に河口近くの岸に移動する。	11 月～12 月 ●引網（サーフネット）調査 10 月～12 月 ●丸稚ネット調査 11 月～3 月 沖合集魚灯調査	○専門家による調査結果概要について勉強会
春	4 cm ほどに成長したアユはシラスのような形からアユ本来の形へと色と形を変化させる。このころのアユを稚魚と呼ぶ。川へ入り、上流へと移動（遡上）する。遡上中にアユの食物がプランクトンから川底の石に付着する藻に変化する。	4 月～7 月 ●捕獲調査（耳石により産卵時期を調査） ●遡上調査	●魚道付近で目視による遡上調査 ○魚道等の状況を観察し勉強会 ○遡上調査結果について勉強会
夏	遡上したアユは良質な藻がついている石を確保するため、なわばりをつくる。夏の間にぐんぐん成長する。	4 月～7 月 ●標識調査	○専門家による調査結果について勉強会
秋	川で成長したアユは産卵に適した場所を目指して川を下る。産卵場所は河口に近い小石が多い川底で産卵はアユが群がるようになって行われる。産卵を終えたアユは短い生涯を閉じる。	10 月～11 月 ●産卵場所調査	○下流域で産卵場造成 ●産み付けられた卵の調査を目視で行う ○調査結果について勉強会

* 武庫川と矢作川では川の状況及び立地特性等が異なるため調査内容や時期は必ず異なると思われる。またすでに天然アユが遡上していた矢作川と近年絶えていた武庫川ではまず海から川に稚魚が遡上でき生息できる環境づくりが必要である。そのための課題と調査項目（川の現況調査）の検討がまず必要と考える。

＜高橋勇夫氏のアドバイス＞

- ①市民や漁協組合員、行政で「アユ調査会」を組織する。この組織によりできる範囲で現地調査や資料分析を行う。調査の際には専門家（高橋氏等及び専門コンサルの補助や技術指導）が必要。
- ②得られたデータの解析（専門家による）結果をもとに現況分析とアユを増やす具体的プランの立案を「アユ調査会」でやる。年 3 回程度の検討会（専門家によるコーディネイトが必要）となる。
- ③出来上がった「アユ復活プラン」をシンポジウムやフォーラム等で公開（年 1 回）し関係機関で実施に移す。全体の期間は 3 年程度。

* 「都市河川に天然アユを呼び戻すことの意義」を問いかけ、「魚道づくり」や「産卵場調査」など市民と一緒にやることができるだけ市民参加型でやるのが重要である。武庫川ならできると思う。

■090206 に上記提案内容について宝塚土木事務所河川対策室計画課と協議した。

参加者：県 松井課長 平塚主任 武庫流会 田村 吉田

意見交換の概要：下記

- <武庫流会>①上記提案内容を説明。高橋氏や武庫川漁協と協働して天然アユ遡上実現への活動を行いたい。
- ②武庫流会として上記提案のように専門家による基礎調査の機会をとらえ調査協力、研修会、調査結果現地報告会、フォーラム、市民への啓蒙等を行い、武庫川への関心を高めたい。
- ③土木事務所の事情も理解するので当面「調査会」組織にはこだわらない。調査の具体的な内容や時期が決まれば事前に知らせてほしい。
- <宝塚土木>①提案内容については全体として間違っていない。将来的には提案のような調査会も検討。
- ②調査内容や時期については高橋氏の指導のもと、コンサルに発注して実施の予定。
- ③事務局に土木事務所がなることは人的問題もあり困難である。
- ④調査は3ヶ年程度かけてやりたい(平水年、豊水年、渇水年等)。
- ⑤移動障害の解消やアユにやさしい井堰の改良等については武庫川の場合水利権者との調整が課題である。
- 矢作川の場合調査会に水利権者が入っているので比較的スムーズであったと思われる。
- ⑥武庫川は水量が少ないので水量確保のため千刈や青野ダムからの水量確保の可能性についても水利組合や各市と調整して検討したい。